

東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター
白神山地巡視日誌

【巡視箇所】 小岳
【巡視日】 平成30年9月27日（木）
【報告者】 専門官 有本 実

小岳といえば本州最低標高のハイマツ群落が有名ですが、近年“マツノクロホシハバチ”というハチの一種にハイマツの葉が食害される事案が発生したため、当センターでは毎年被害状況を調査しています。幼虫の食害ピーク時（9～10月）を見計らって、今年は9月27日に現地調査を行いました。

登山口から続くブナ林はまだ色付いていませんでしたが、晩夏～初秋が旬のキノコ類はすでに傘が開ききっていて、季節は着実に秋に向かっていきます。先日の台風21号の強風により津軽峠のマザーツリーが折れてしまいましたが、小岳山麓のブナにも数箇所被害が見られました。そのうちブナシメジやナメコが生えてくれないか、などとつい期待してしまいます。



ヌメリツバタケモドキ（食用）



ツキヨタケ（毒！）



台風により折損したブナ



地図を片手にハイマツを確認する齊藤調査員

登り始めてから1時間程でハイマツ帯に到着し、早速調査スタートです。登山道上で最初にハイマツが出てくる箇所を開始地点、小岳山頂を終了地点として調査ルートを設定し、ルート沿いに左右約2mの範囲のハイマツを観察していきます。ハバチの幼虫が確認された場合は、幼虫の集団数と、可能であれば個体数まで一匹一匹カウントして記録し、GPS機能付きのデジタルカメラで撮影して位置情報も取得する！…と意気込んでいたのですが、ん？？幼虫は全く見当たりません。



ハイマツと向白神岳



ハイマツの実。今年は食害は見られませんでした。

このハバチに限らず、自然界である特定の害虫が大発生すれば、その後を追うように天敵が大発生して、被害は数年で抑えられるものです。人工的に作られた農耕地では天敵がいないために農薬を散布して被害を食い止める訳ですが、複雑な食物連鎖の上に成立している白神山地の森林生態系では、ハバチの天敵が大活躍したのでしょうか。やるな白神…と一人呟きながら、無事に結実したハイマツを撮影して山頂を後にしました。



小岳山頂より藤里駒ヶ岳（右）と田代岳（左奥）。山頂一帯は鮮やかに彩られていました。